

C. 寄り添って捉える

C-1. ぽっとなココロどこいくの？ いずみがおか園(大阪府堺市)

[0歳児]



A児は、いつもは何をするにも慎重。始め一步下がって観察をしてから参加する傾向があった。でも大きな箱を出した時はすぐに近づいてきて箱の上のおもちゃを触りはじめていた。



持っていたおもちゃを穴にぽと～ん！「あれ？おもちゃどこいったん？」落とした穴をすぐにのぞくかと思いきやA児は音がした下方向をじっと見て、もうひとつ穴を見つけたようだ。

発見！



「あれ？おもちゃはどこ？」発見した穴に手をぐいっとつこんで指先を使って探っている。もう少し奥まで…。「うん？手前かな？」真剣な顔つきで、探索中！「あっ、おもちゃ！」

発見！



おもちゃをぎゅっと握ったA児、穴から出そうと頑張っている。握っているのでなかなか出てこない。一度手を離すと「ぽと～ん！」あ～あ！また穴の中に消えたおもちゃ…。



諦めるのかと思いきや、左手に変えて再チャレンジ！おもちゃが穴から顔をのぞかせた時のA児は「やった！」という表情！もう少しというところで、またまたおもちゃはコロリンコ！

残念！



「あ～あ！」とふと下を向いた瞬間、「あれ？」変な穴を

発見！

興味津々の顔に変わったA児。またもや探索開始～！場所を移動して…。



この穴は、いったい何だ？そっとのぞき込む。穴の形に興味を示しているのか？それとも、消えたおもちゃを探しているのか？しばらくじっと観察する。手を伸ばして穴に突っ込むのかと思いきや…。



意外や意外…。A児は、穴にふたをしてしまった。保育者の予想を反しての行動…すぐ興味深かった。すると次の行動にもびっくり！ふたを持って箱を持ち上げたA児。真剣な顔！



力いっぱい持ち上げたA児。ひっくり返そうとしたのかな？途中で、持ちこたえられなくて手を離して…ドン！床に落ちた箱。するとその勢いで、ふたが開いてコロコロと探していたおもちゃが！**ヤッタ～！**

考察

保育室の真ん中にど～んと穴のあいた大きな箱(つかまり立ちが出来る高さ)を置いてみた。さあ！子どもたちの反応は？…あえて遊び方を見せたりせず、どのような行動をとるのか、少し離れた所から見ることにした。保育室の隅ではなく真ん中に置くことによって子どもたちも「なんだろう？」と思うと同時に近づいてきた。目をキラキラ輝かせて突進してくる子、すぐに穴を発見してのぞき込む子、周りにあったおもちゃ、新聞紙、ビニール袋、布などを次々と穴に入れていく子、箱にかぶりつく子、穴から物を取り出す子など様々な行動が見られた。穴に物を入れ終えた子どもたちはすぐに違う遊びに移行。

そんな中、ひとり黙々と箱で遊び続けている子を発見！時間にして15分ほどのA児の行動に注目した。見る(好奇心)→触る(穴をのぞく)→触る(穴に入れる)→試す(穴に入れたものを探す)→繰り返す。この行動によって徐々にこの穴のあいた大きな箱の面白さに気がついたA児。A児はクラスで1番月齢が高い子ども。

では、月齢差によって行動がどのように違うのか注目してみた。A児との月齢差半年のK児では、見る(好奇心)→触る(取り出す)→試す(口に入れてみる)→繰り返す。二人の行動によって、探索の過程に変化があることが分かった。他の遊びにおいても注意深くみると、「あれなかな？」という好奇心から始まるのは同じでも、月齢が高い場合は、遊びが持続したり、「試す・繰り返す」姿が多く見られたりする。月齢が低い場合は集中する時間も短く、他のものへ興味が次々移ってしまった。

子どもの好奇心を引き出すような遊びの環境構成や月齢差を考慮したり、時間的余裕や空間的工夫が適切にとれたりできる保育者の姿勢が何よりも大切であることが分かった。

ポイント

保育者は「子どもの様子を見守る」ことで、0歳なりに思いをもって物とかかわり、様々な探索行動をして発見したり思うようにならない残念な思いを感じたりしている「科学する心」の芽生えを捉えています。子どもの姿を丁寧に見取って記録し、考察して振り返ることで幼児理解が深まり、次の環境づくりや保育者のかかわりの基になることが分かります。